

五島慶太 未来創造館 開館記念

Keita Goto
Future Creation Hall

2020 4/18^{Sat}

慶太翁138回目誕生日

Keita Goto 138th birthday



信州 青木村



ごあいさつ

青木村長 北村 政夫



昨年より整備を進めてまいりました「五島慶太未来創造館」が完成し、本日開館の運びとなりました。これもひとえにご支援ご協力をいただきました皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

振り返りますこと平成30年8月14日、落雷により殿戸地籍にある慶太翁の生家が焼失してしまいました。村では郷土の偉人として顕彰活動を進めている中でこの出来事に、関係するみな深く落胆をしました。しかしこの出来事がより一層私たちの慶太翁への造詣を深め、ピンチをチャンスに変えるべく慶太翁の功績を振り返り、人材育成や交流人口拡大に向けての拠点施設とするため、「五島慶太未来創造館」の建設へと至りました。建設にあたりましては、東急株式会社をはじめとした東急グループ・五島育英会・亜細亜学園様などから財政的なご支援をいただき、国の地方創生のモデル事業として、地方創生拠点整備交付金・企業版ふるさと応援寄附金を活用することで早期に事業着手することができ、本日の開館となりました。東急グループ様のほかにも約200法人・個人の皆様からご寄附をいただき、改めて慶太翁に対する思いの強さを実感いたしました。

慶太翁の教育者としてのスタートは、明治33(1900)年の18歳から20歳まで務めた当村小学校の代用教員でした。また実業家として「文化事業が興れば人が動く」との考えのもと、沿線への学校誘致を推進し多くの学校に無償で土地を提供したほか、学校法人を設立し初代理事長に就任するなど教育事業にも情熱を注ぎました。

『未来を見据え 都市を拓き 人を育てた

東急グループ創業者 五島育英会創業者 五島慶太 生誕の地

誇らしき我が郷土から世界へ羽ばたこう 青木村』

昨年2月に国道143号沿いに設置した大型看板に記されているように、この「五島慶太未来創造館」で慶太翁の功績や建学精神を学び、その力強い生き方に薫陶を受け、世界に羽ばたく人材に育ってほしい、そんな子どもたちへの願いを込めて、私はこの未来へと続く“起点(Railhead)”に立っています。「五島慶太未来創造館」をプラットホームとして、青木村の子どもたちをはじめ、東急グループ社員・五島育英会・亜細亜学園の学生・生徒の皆様がより社会で大きく活躍する育成の場となることを、また慶太翁のゆかりのある皆様と青木村との交流・関係人口拡大に寄与する場となることを強く望みます。

当事業を実施するにあたり、本当に多くの皆様のご協力とご寄附をいただきました。重ねて皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも深いご交誼をいただきますよう心よりお願い申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。

令和2年4月18日

北村政夫

五島慶太未来創造館 事業概要

■整備概要

- ・五島慶太未来創造館(木造平屋建て 237㎡)
- ・周辺整備工事(駐車場、アプローチ、広場、間知石積み)
- ・展示一式、VR /CG動画製作

■コンセプト「学習・交流の起点」

五島慶太未来創造館は、慶太翁の偉大な功績を振り返るだけでなく、慶太翁の生家跡地、五島慶太翁記念公園など、周辺の施設内外空間を有効的に活用して、青木村をはじめ地域子ども達・若者達が慶太翁の建学精神を学び、青木村民や東急グループの関係者、五島育英会・亜細亜学園の学生や教職員をはじめとした来訪者らが多彩な交流・関係を生み出し、知(世の中に関心の目を向けて)・行(自ら行動を起こし)・信念(志を抱き、強く貫く)を培う人材育成・交流の起点(Railhead)として整備を進めてまいりました。

■事業に要した経費及び財源内訳(2020.3.31現在)

1. 経 費

費 目	金 額
基本計画策定・測量・展示VR制作業務委託	13,752千円
実施設計・工事監理業務委託	15,356千円
建築工事・周辺整備工事	146,925千円
合 計	176,033千円

2. 財 源

費 目	金 額
企業版ふるさと応援寄附金等(東急グループ、五島育英会、亜細亜学園、上信越東急会)	83,000千円
地方創生拠点整備交付金(内閣府)	79,930千円
法人・個人からの寄附等 193件	13,103千円
合 計	176,033千円



慶太翁のゆかりの品が並ぶ



館内展示の様子



1964年当時を再現した渋谷駅のジオラマ



開館によせて

東急グループ代表 野本 弘文



本日の「五島慶太未来創造館」の開館にあたりまして、東急グループを代表し、一言お祝いを申し上げたく存じます。本来であれば、この場にて皆様に直接申し上げるべきところ、新型コロナウイルス感染拡大によりまして、出席ができませんことを大変残念に存じ、また深くお詫び申し上げます。

改めまして、このたびは、慶太翁138回目の生誕の日に、「五島慶太未来創造館」が開館されますことを心よりお祝い申し上げます。青木村の偉人である慶太翁の生涯を学び、人財を育む場として、この地に誕生したことは、大変意義深く、青木村と東急グループの絆がさらに強く結ばれることを大変うれしく思います。

一昨年8月14日、慶太翁六十回忌にあたるご命日に、生家が落雷により焼失いたしました。北村村長様より「慶太翁の記録や記憶までも失うわけにはいかない。このピンチをチャンスに変えていきたい。」とのお言葉に共感し、東急グループとしてできる限りのご協力をさせていただくことといたしました。これまで1年半の期間に亘り、本館の開館に向けてご準備を進めて来られました青木村をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

鉄道院の官僚から実業家に転身した慶太翁は、日本資本主義の父と謳われた渋沢栄一翁の街づくりの理念を実現するべく、大正11年（1922年）に設立された目黒蒲田電鉄の経営に携わり、以来、鉄道事業を基盤とした街づくりを通じて、東急グループの礎を築きました。その後も東急グループは、人々の生活を豊かにする様々な事業を展開し、おかげさまで再来年には創業100周年を迎えます。

実業家としてのみならず、教育者や文化人としても大きな功績を残した慶太翁の「根っこ」ともいえる人間性の原点は、まさにここ青木村で育まれました。本館のタペストリーにもございますが、「体力」そして「熱」や「誠」は、成功するために必要なものとして慶太翁が掲げており、将来大臣になる夢を抱き、上田中学校への3里の道のりを3年間1日も休まず通った、たゆまぬ努力の賜物であると強く思っております。

また、私の大事にしている慶太翁の言葉に、「新田一如」そして「真・善・美」があります。この意味するところは、物事を判断する上で大切なことは、「新しいか、古いか」ではなく、「正しいか、正しくないか」「よいか、よろしくないか」「役に立つか、立たないか」である、ということです。経営において、正しい判断を行うために本質をとらえた言葉として、私自身いつも大切にしております。

最後になりますが、この五島慶太未来創造館に多くの方々が集い、交流を深める拠点として、若者達が未来の夢を語りあえる場となることを心よりご祈念申し上げまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年4月18日

野本弘文



開館によせて

長野県知事 阿部 守一



本日ここに、青木村の皆様をはじめ、関係企業、学校、団体等多くの皆様の多大なるご尽力により「五島慶太未来創造館」が開館されますことを、心からお喜び申し上げます。

五島慶太翁は、数々の功績を残した実業家であるとともに、次世代の育成に力を注いだ教育者であり、優れた文化人でもありました。

慶太翁が生まれ育った青木村は、青木三山をはじめとした美しい景観や、国宝大法寺三重塔に代表される文化財、飛鳥・平安時代の開湯といわれる歴史ある温泉など様々な地域資源に恵まれています。

慶太翁の類まれなる洞察力と壮大な構想力は、魅力ある青木村の歴史文化や気候風土、そして、この地に暮らす皆様に根付く自主自立の精神により育まれたものと推察しているところです。

今、私たちは時代の大きな転換期を生きています。超高齢社会の到来、急激な人口減少、AI・ロボットなどテクノロジーの急速な発達により、私たちを取り巻く社会・経済環境は加速度的に変化しています。

このように変化の大きな時代に、県民一人ひとりがしあわせに暮らすことができる「しあわせ信州」を実現するためには、人々が主体的に学び、社会を治めていくことにより、力を合わせて新たな社会の仕組みを創り上げていくこと、「学びと自治の力」が必要です。

「五島慶太未来創造館」は、本県に脈々と受け継がれてきた「学びと自治の力」を具現化するものであり、村内外の若者の人材育成と、活力ある地域の創造に資する拠点として重要な役割を担うものであります。

この施設が大勢の方々に親しまれ、青木村と慶太翁にゆかりのある多くの企業や学校、団体等の皆様が集い、新たな交流が生まれる場となることを期待するとともに、末永く発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

令和2年4月18日

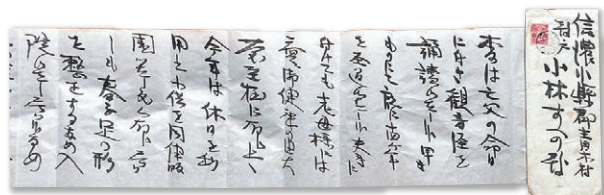
阿部 守一

4

ふるさと・家族への想い

～ふるさとへの想い・家族との絆～

実業家としての成功の裏にあった家族との別れと絆、現在も続くふるさととの繋がりを紹介。慶太が故郷へ宛てた直筆の手紙などを見ることができます。



故郷へ宛てた手紙



小林家の人々



五島家の人々

3

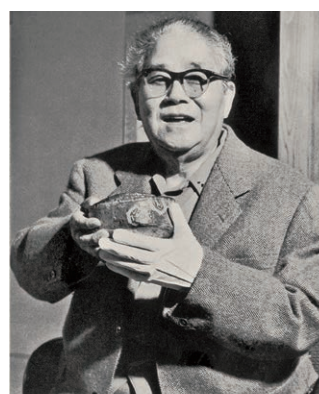
事業家・教育者・文化人 五島慶太

～実業界への飛躍、そして鉄道王へ～

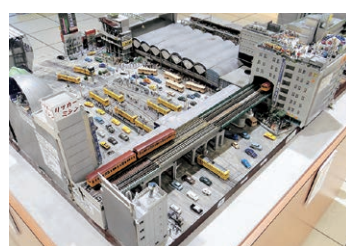
大学を卒業後、官僚になり、さらに実業家へ転身した慶太の輝かしい実績や、教育者として学校の経営に至った経過、文化人としての顔を紹介。映像コーナーでは、紹介動画を見ることができます。



直筆の書(殿戸区蔵)



デハ1型車両模型
(電車とバスの博物館蔵)
目黒蒲田電鉄で初期に活躍した電車



「思い出の街、渋谷」
昭和39年頃の渋谷駅東口模型
(製作: 富澤 瑞夫・昭子)

五島慶太未来創造館ご案内



館外展示

世田谷線で使われた80形、東横線などで使われた3000系のスポーク車輪です。

車輪モニュメント「Railhead」
(東急電 鉄株 寄贈)



1

ようこそ五島慶太未来創造館へ

～いで湯と文化の里～

慶太を育んだ青木村の歴史・文化等の紹介。



朝日の当る青木村



国宝 大法寺三重塔

五島慶太の想いを未来へ

5

～慶太の功績、そして未来へ～

慶太の功績や想いが現在を生きる人々の生活にどう繋がっているかを紹介。



東急電鉄2020系電車車両



東京都市大学世田谷キャンパス五島記念館



渋谷の街並み



亜細亜大学武蔵野キャンパス

青木村が育んだ 小林慶太

～勉強好きなガキ大将が東京帝国大学(現 東京大学)へ～

わんぱくな少年が様々な恩人と出会い、成長していく中で日本のリーダーを志し、上京するまでを紹介。体験コーナーでは平成30年(2018年)の落雷により焼失した生家をVR(ヴァーチャルリアリティ)で体験できます。



慶太翁生家の木材を活用した受付



生家復元模型



青木尋常小学校卒業証書



実際に使用した教科書



VRゴーグル映像体験 (画像はイメージ)

五島慶太翁77年のあゆみ

- 1882年(明治15年)0歳
小林家の次男として4月18日殿戸村(青木村殿戸)に生まれる。
(父、小林菊右衛門 母、小林寿桑)
- 1889年(明治22年)7歳
青木尋常小学校(現、青木村立青木小学校)に入学。
- 1893年(明治26年)11歳
青木尋常小学校を卒業後、浦里小学校高等科
(現、上田市立浦里小学校)に入学。
- 1895年(明治28年)13歳
長野県尋常中学校上田支校(現、上田高校)に入学。
- 1898年(明治31年)16歳
長野県立松本中学校(現、松本深志高等学校)に入学。
- 1900年(明治33年)18歳
松本中学校卒業後、恩師小林直次郎の紹介で青木尋常小学校の代用教員になる。
- 1902年(明治35年)20歳
東京高等師範学校(現、筑波大学)の入学試験に合格し、英文科に入学。
この学校で校長の嘉納治五郎に出会い大きな影響を受けた。
- 1906年(明治39年)24歳
東京高等師範学校卒業後、三重県立四日市商業学校の英語教師になる。
- 1907年(明治40年)25歳
東京帝国大学(現、東京大学)に入学。
学生時代は、寸暇を惜しんで勉強に励んだ。
- 1911年(明治44年)29歳
東京帝国大学卒業後、農商務省に入省、官僚になる。
- 1912年(明治45年)30歳
久米民之助氏(工学博士で二重橋の設計者)の長女、萬千代と結婚。
久米家の懇望で、久米家の祖母の五島家(元上州沼田藩藩士の家)を継ぎ、
五島慶太になる。
- 1913年(大正2年)31歳
鉄道院に転属。長野県では上田温泉電軌や飯山鉄道の鉄道建設に関わった。

- 1920年(大正9年)38歳
鉄道院を退職。
- 1922年(大正11年)40歳
目黒蒲田電鉄を設立、専務取締役役に就任。
- 1934年(昭和9年)52歳
青木小学校建築費として指定寄附。
- 1939年(昭和14年)57歳
東横商業女学校開校。五島慶太の育英事業の第一歩。
昭和30年には、学校法人五島育英会を設立。
- 1942年(昭和17年)60歳
東京急行電鉄(株)取締役社長に就任。
- 1944年(昭和19年)62歳
運輸通信大臣に就任(東京急行電鉄(株)取締役社長を辞任)。
終戦後GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)により公職追放。
- 1952年(昭和27年)70歳
東京急行電鉄(株)取締役会長に就任。
- 1955年(昭和30年)73歳
大東急記念文庫を開館し、一般公開。
- 1958年(昭和33年)76歳
ふるさと、青木村殿戸区に公民館を寄付。
公民館は建て替えられたが、敷地には
五島慶太を顕彰する胸像が残っている。
- 1959年(昭和34年)77歳
8月14日逝去。
- 1960年(昭和35年)
「五島慶太翁碑」が飯山駅前に建立。
- 1981年(昭和56年)
青木村に五島慶太翁記念公園竣工。
- 2020年(令和2年)4月18日
青木村に五島慶太未来創造館開館。

五島慶太未来創造館

五島慶太未来創造館

〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢3270番地3

TEL・FAX 0268-49-0303

E-mail: gotosozokan@vill.aoki.nagano.jp

【開館時間】

午前9時～午後5時(最終入館 午後4時30分)

【休館日】

毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始
(祝日が月曜日の場合は翌日火曜日が休館)

【入館料】 無料

【駐車場】

青木村図書館・青木村文化会館の駐車場をご利用下さい

【アクセス】

上信越自動車道 上田菅平ICより車で30分
長野自動車道 麻績ICより車で30分
JR北陸新幹線 上田駅よりバスで30分

広域アクセスMAP



周辺MAP

